



Lions

年報 No.9

1998.6



蒲郡マリンライオンズクラブ

◆ 目 次 ◆

スローガン・モットー・ライオンズの誓い	1
役員一年間の回顧	2
次期役員の抱負	4
リジョン委員の回顧と抱負	6
CN10周年大会委員長の抱負	8
アクティビティ一覧	9
特別寄稿	10
特別活動報告	11
例会活動報告	13
趣味部会活動報告	25
新入会員紹介	28
退会会員	31
役員、委員会組織	32
事務局日誌	34
会員年間出席表	40
あの日、あの時	46
編集後記	





MARINE LIONS CLUB GAMAGORI

◆ スローガン・モットー・ライオンズの誓い ◆

スローガン

Liberty, Intelligence, Our Nations Safety
(自由を守り、知性を重んじ、我々の国の安全をはかる)

モットー

We Serve
(われわれは奉仕する)

1997～98年スローガン

334複合地区
愛と誇りと友情と・・・もっと光を!!

334-A地区
友情と愛の奉仕で 輝く未来

蒲郡マリンライオンズクラブ
みんなの力で 身近な奉仕

ライオンズの誓い

われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、
平和と自由を守り、社会奉仕に精進する



この一年を振り返って

会長

吉見 敏春

会長に就任する迄は血圧があがる思いでしたが、其の会長職もあと余すところ三ヶ月となり「九仞の功を一簣に虧く」と言う諺どおりにならぬ様に残された三ヶ月を全力投球して有終の美を飾りたいと思います。振り返って見ると、この一年で世の中がこんなに急激に変った年も無かったのではと思う。十年前は世界の最先端を行く経済大国、一人あたりの国民総生産は世界最高、日本こそは現代の天国と主張する事が出来た。然し今は戦後最大の不況、金融システムは崩壊の瀬戸際に立ち、景気対策か財政再建かは右足でアクセルを踏み、左足でブレーキを踏みながら車を運転している様なもので、政治の権取りも大変な時期にある。又一方社会面では中一の生徒の先生刺殺、中二の双子兄弟の主婦殺傷事件、中三の警察官から拳銃の強奪未遂事件と、連日の様に少年による犯罪の多発、今迄の常識では考えられない常識破壊の時代に成り、いったい世の中どうなっているのだろう、と考えさせられる。去る11月23日の阿部進先生を招いての文化講演会の話で、竹にはフシがあるので強い様に人間にも幾つかのフシが必要である。多くの人が生きて行く過程で生存競争はつきもので、子供の時代に、かわいそだと言って試験や競争からのがれてフシを作つてやる事をしないと、社会に巣立つてから大きなショックにあつた場合に耐えられない。人の感情を抑制するのが理性とか忍耐と言われる竹のフシである。

こんな話をされておられました。『逆境は無言の教師で、逆境にまさる教師なし』とはこの事を言ってる諺と思う。昔は貧困が犯罪を生むと言ったが今は『豊かさが犯罪を生む』親孝行したい時に親がいはず昔の事で今は親孝行したくないのに親がいる、と言った風潮で世の中逆立ちしている事が多くなってなげかわしく思います。クラブのアクトも時代に即応した中味の再検討も必要ではないかと思います。特に青少年問題については、今迄以上に力を入れてはと思います。

この一年間経験不足で皆様には、なにかとご迷惑をかけた事と思いますが、皆様方の暖かい御協力のお陰で何とか無事に終わることが出来感謝申し上げます。



幹事として一年間を振り返って

幹事
L 夏目 憲行

昨年、今年と大役を引き続いで受けさせて頂き、クラブの様子が多少なりとも理解出来た様な気がします。昨年指名委員長より幹事の話が有った時、何回もお断わりしたのですが、指名委員長の熱意に負けて、妻に幹事を引き受ける事を話した時、くれぐれも会社の仕事を疎かにしないでね、と言う言葉が少し頭に残った。名古屋ドームでの夏期家族会、蒲郡市民会館でのガバナー公式訪問合同例会、つつじ寮での寮生との運動会、阿部進先生を招いての講演会、新しく出来上った蒲郡プリンスホテルでのクリスマス家族会、姉妹クラブ飯田赤石ライオンズクラブとの幡豆海岸での汐干狩り等のアクティビティは、どれもこれも今でも全ての光景が思い出されます。クラブに入会しなければ話も出来ない人達との交流、話をしてみると意外と違った一面を見る事ができました。人脈が広がる事は男にとっては財産であり、又残りの人生を生きる上でも非常に有益である。長い不況にかかわらず仕事をこなし、貴重な体験をさせて頂いた事は私の人生にとって、素晴らしい、そして掛け替えのない経験でした。



感謝

会計
L 近藤 洋光

会員の皆様、ご指導、ご協力ありがとうございました。

ご指名を頂き、お引受けをした時大変不安で悩みました。「ライオンズ必携」の読み返しと、三役セミナーでのL小管康正の講義及びL並松勉から「ライオンズクラブ役員必携」に基づいた解説を拝聴させて頂き、心が決まりました。それから一年がもう過ぎようとしております。

振返ってみると、理事会に出席し、毎月の収支報告及び収支決算報告、又承認を得ての支払業務等を行いましたが、一年間無事に何事もなく終えることができたのも、会員皆様方の温かいご指導、ご協力のお陰と心から感謝しておるしだいです。又事務局の方々が常に陰で支えていていただいたことに、改めて心より厚くお礼申上げます。

最後に、会員皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



次期会長としての抱負

次期会長

L 河井 勤

私たち蒲郡マリンライオンズクラブは来年創立十周年を迎えます。真に喜ばしいことでございます。そうした時、はからずも次期会長に選ばれました私は、その責任の重大さを改めて考えさせられているというのが現心境でございます。何より先に会員皆様の御支援、御協力を賜りますことをお願い申し上げる次第でございます。

さて、皆様ご存知のように私たちライオンズは役員組織をはじめ総てが単年度制をとっています。そして今日まで会長を中心に役員の方たちが相談り常により新しく、よりよきものを求めて立案実行され、立派な成果を収められました。

しかし、単年度制はどの社会でもそうでありますようにトップダウンの弊があるものです。それで、幸い来年度が十周年という大きな節目でありますことを契機に、私たちのクラブの組織内の活動のあり方を見直し、組織を全員の活動の場であらせたいと考えて居ます。

そのための具体的構想と申しますか、コンセプトとして 第一・全副会長は各委員会を掌握管理して戴き、より充実したアクティビティを作成する。第二、総てのアクティビティは全会員の総意により実施されるので、例会において会員皆様の活発なご発言をお願いする。

第三、会員の皆様と、広く気楽に発言していただける機会を設け、互に多角的なご意見を述べあい、聞き合うことで自然と個人的にも大いに裨益するところのある明るく楽しい例会にする。

以上の三項目を念頭に置き、平成十年度を「反省と飛躍の年」と位置づけ、皆様の絶大な御協力の下で一年間を頑張りたいと考えて居ります。何と申しましても次期会長に任命されても日も浅く、そのための新会長としての抱負としては未熟とのご批判もあろうかと存知ますが、次の一年間どうぞご忌憚のないご意見を賜りそれを糧にして鋭意努力精進させて戴きます。

次に新年度早々に取り組むべき十周年の記念事業のことでございますが、これにつきましては、既に決定して居ります十周年大会委員長を中心に環境をテーマとしたアクティビティを推進してまいります。会員皆様のご協力ををお願い申し上げます。

思いますに、私たちライオンズが“ウイサーブ”をモットーにし、嘗て大会で採択された高邁な精神によるライオンズの誓いの実践に努めることの出来ますのも結局円満な家庭と健全な職業を持つ幸福あってのことだと思います。今“ウイサーブ”を思いつつこの原稿を認めて居りました時、ふと高校時代の恩師から「受けた恩に感謝し、それを社会に返せ」といった意味の中国の哲人の言葉を贈られたことを想い出し、私たちライオンズのモットーこそは全世界の古今を通じての真理だということを痛感し、改めてライオンズとしての喜びと誇り、一層の決意を感じ、抱かされましたことをも付記させて戴き、私の抱負と致します。



友情に感謝して

次期幹事

L 鈴木 孟

大変な役目を仰せつかってしまった。力不足らずで、会長はじめ皆さんに迷惑を掛けてしまうような事はないだろうか。幹事には様々な用事があるようだけれど、時間的には大丈夫だろうか。考えると気になる事ばかりです。

しかし、ライオンズクラブでは、沢山の良い友達を得る事が出来ました。沢山の良き先輩から多くの教えを受けました。買いかぶりでしょうが、この大役に私を推薦してくれたのも、私を認めてくれたからだと思います。これらの暖かい友情や先輩の好意に対しては、何らかの形で報いねば、という思いもあります。

大役を引き受けることを承知した今、出来るだけの事はやってみようと考えています。この役目を果たすことで、再充電したいとも考えています。少しでも皆さんのお役に立つ事が出来れば、私自身、もう一回り大きな人間になれるでしょう。

でも、余り緊張しては失敗しそうです。私としては抱負がどうのこうのというより、会長の意を体して、肩肘はることなく私なりにやってみます。皆さんのご理解とご協力を切にお願いします。



次期会計に指名されて

次期会計

L 三浦 雅敏

次期会計の指名を受けました。会計とはこんな役目であろうとおぼろげな輪郭は見えて、今は何をやるのかわからない状態です。各委員会でも所属して実際にアクティビティをやり、はじめてその意義を知りました。

今年一年間会計の任務を全うし、多くのものを学び、意義のある年にしたいと思います。



MARINE LIONS CLUB GAMAGORI



ゾーン・チェアマンとしての一年

334-A地区 第2R 2Z・ZC

L 鈴木 敏允

「国境の長いトンネルを抜けると、雪国であった」文豪、川端康成の代表作「雪国」の最初の文章である。何時に成ったら不況の長いトンネルから抜けて、日差しの照りつける暖かさがもどってくるのか一日千秋の思いで待っているのは私だけではあるまい。今年の日本は「大変な時代に成った」之が多くの人々の実感だろうと思う。抱えこんだ不良債権の重みでカネ転がし、証券転がし、飛ばしをやっているうちにカネが回らなくなると首まで回らなくなつて自分も転んでしまった。「転ばぬ先の杖」と言う諺を肝に銘じて「日本売り」等と言う言葉が流行しない様にして欲しいものである。尚今年は寅年である「トラは死して皮を残し、人は死して名を残す」と言われているが、今の政治家、高級官僚が死ぬと「化けの皮」か「賄賂で貰った汚い金」が残るだろうし、政治改革をやる前に人間改革をやる事をお勧めしたい。又前門の虎(財政再建)後門の狼(景気対策)此の政治の棍取りも極秘の「虎の巻」でも勉強して真剣にやってほしいものである。

現実の婆婆のきびしさの感想が先になり肝腎の事が後廻しになってしまったが、今年度ゾーン・チェアマンとして奉仕する機会をあたえられ、今迄私自身分つて居った積りでも理解されていなかった事に気がつく事が多く、良い勉強になったと痛感しております。人に或いは地域社会に奉仕した時に伝わってくる生きている事の喜びと感動は「喜びは分ち合えば倍になり、悲しみは分かち合えば半分になる」此の眞理こそ私達社会奉仕へ精進させる原動力であるし、又「必要なものを分かち合い、ともにするのが奉仕であり」余ったものを分かち与える慈善とはそこに違いがあるやに思われる。「朝顔につるべ取られて貴い水」奉仕の心、いたわりの心にあふれているすばらしい句であると思う。

相手の心は相手にまかせて、奉仕の心を育む事に今後も努力したいものである。



ゾーン・チェアマン・アシスタントとしての一年

334-A地区 第2R 2Z・ZCA

L 井澤 敏雄

Z.C.L.鈴木敏允のアシスタントとして就任。初仕事は昨年6月、三谷温泉、明山荘での2R新旧役員交代会をアシストする事でした。同姓の井澤ガバナー丸が7月に出航・期待と不安一杯の船出でした。

第1回ガバナー諮問委員会が、市内のホテル竹島に於いて開催され、準備、司会と緊張の連続でしたが、私以上にL鈴木敏允の方が、極度に緊張していてびっくり。それもRC、ZCクラブ訪問が豊川ライオンズクラブ筆頭に始まり、順次進んでいくうちに、彼獨得のユーモア有る、風格ある話っぷり、行動が復活して、さすがと感心致しました。その後のクラブ訪問については余裕を持って、該当クラブの独自性有る運営、熱心なアクティビティ等、垣間見る事が出来ました。

かつてリジョンの献眼、献腎、献血、骨髓バンクの副・正委員を2年間やらさせていただいた時の、知人、友人にお会い出来るのも大きな喜びでした。

2R合同アクティビティ「穂の国、森づくり」も水源地の東栄LC、新城LCの御協力には、感謝しています。



MARINE LIONS CLUB GAMAGORI



リジョン委員を終えて

2R・YE実行委員

L 平野 優

リジョン委員を受けてはや2年と数ヶ月になります。その間 蒲郡マリンクラブの皆様には、大変ご協力を頂き誠に有り難うございました。

YE活動は、ライオンズクラブの重要なアクトの一つです。毎年多くのユースが各国へ派遣や来日いたします。このユース達が異国で不安や心配事が無い様又派遣したご家族が心配しない様にと、各クラブの YE委員長と密に連絡を取りあい気を付けました。複合地区や当地区の委員会での決定事項を各クラブ委員長にはご無理を願い、ご協力いただき誠にありがとうございました。YE活動の中には、まだ色々な問題があると思われます。

もっとPRをしてYE活動にご理解していただける様、今後とも微力ながら、お手伝いしたいと思います。長い間、ありがとうございました。



新たなる気持ちで

次期2R・LCIF委員

L 山本 四十三

蒲郡マリンライオンズに入会して、10年目を迎え、なにやら巨峰にさえ見えたクラブが、この1~2年倦怠感と虚脱感に陥るようになりました。自分自身の責任であることはわかっているのですが、「なぜだろう、なぜだろう」と自問自答する最中、L鈴木殖夫指名委員長から、2R・LCIF委員の依頼の電話を頂き困惑いたしました。

ただ、しかしこの重責は、L鈴木殖夫が「ライオニズムとは何かを今一度考えなさい」という暖かい励ましと思い、受けさせて頂きました。この役目は会員皆様のご協力がなければできません。その点を御理解いただきまして、ご鞭撻をよろしく御願い致します。



十周年記念事業を迎えて

大会委員長

L 鈴木 靖夫

蒲郡マリンライオンズクラブも創立10周年を向える事ができました。全会員の協力と参加によるクラブの活成と意識の高揚がこれを機会に盛り上がれば幸いです。

21世紀を目前にして明日の地球環境の危機、地球温暖化、熱帯雨林の減少、酸性雨、砂漠化、オゾン層の破壊等々が叫ばれています。非常に範囲も広く、雲を掴むような事業ですが10周年記念の理事の皆様の暖かいアドバイスと協力により、蒲郡市の行政、市民の方々に少しでも理解して戴き今後の行動に施策に反映出来ます様に努力して参りたいと念じています。生ゴミを燃やさないで堆肥として有効利用すべく「生ゴミモニター」を募集しました所予想以上の反響でしたし、「池の浄化」に於ても、子供達の参加を希望しました所、形原北小校長先生には環境問題を手伝いながら身につく実地勉強だと授業時間に組み入れて戴き、又地域住民からも青少年健全育成協議会からもぜひ子供と共に手伝いがしたいとの申し入れがありこの問題が地域に影響し感激している次第です。地域によりもっと浸透するため講演会を計画していますが講師に有用微生物の新しい利用分野を開発し、再発見し、世界に利用法を広めました琉球大学の日嘉照夫教授を主とし、有用微生物を韓国で最初に取り入れ、生ゴミの堆肥化に取り組み今では30万世帯の方々に御指導なさり環境の悪化を防ぐのは人道上からも赤十字社の大きな仕事にしなければと、生ゴミに埋まり、生ゴミで手を汚し分別し、その利用先の農家を一軒一軒廻り、作業場を造り献身的に努力なさっている釜山赤十字社会長ペイ様との協同講演をお願いし環境グッズ展、生ゴミ利用による花、野菜展、子供達のポスター展とを行い、又11月には環境シンポジウムを開催し、行政、教育、経済、主婦、学識経験者からの参加をお願いし、あらゆる角度から検討し、どのような行動が出来るか、巾広くパネルディスカッションして戴き環境問題の大切さを理解して戴き市民に大きくアピールして参りたいと願っています。